

テーマ:

# そだてよう・つたえよう「わたしたちのいいこ」

京都府京田辺市立田辺東小学校

竹村 晴香 先生

奥 千明 先生

● 2年生

● 生活科

## この活動の特徴

### 「凜々子」活用のポイント①

栽培ガイドブックと  
ウェブサイトをフル活用！  
アサガオの鉢で20個収穫！

### 「凜々子」活用のポイント②

国語科「かんさつ名人  
になろう」と関連づけて  
観察力・表現力を養う

### 「凜々子」活用のポイント③

みんなで調理して  
食べる活動から  
食の大切さを学ぶ

## 活動のねらい



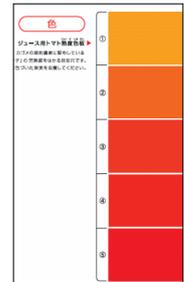
- 興味・関心と愛情を持って「凜々子」を育て、収穫する。
- 国語科「かんさつ名人になろう」と関連して、「凜々子」を丁寧に観察し、「凜々子」のようすが相手に伝わるように工夫して書く。
- 友だちと協力し、収穫した「凜々子」を調理する。

## 活動の概要と流れ

対象学年： 2年生 2クラス（46名）

実践期間： 4月～8月

時期	学習活動
4月27日～	<ul style="list-style-type: none"> <li>届いた苗を観察し、アサガオの鉢に植え付ける。</li> <li>毎朝、水やりをすることで、苗の生長の変化をとらえる。</li> </ul>
5月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブサイトを見ながら、着果促進と芽かきの仕方を学習する。</li> <li>摘んだわき芽を水に挿し、発根のようすを観察する。</li> </ul>
6月上旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科「かんさつ名人になろう」で観察のポイントを学習する。</li> </ul>
6月上旬～	<ul style="list-style-type: none"> <li>着果後、教員が週に一回、市販の園芸用液体肥料の追肥をする。</li> </ul>
6月中旬	<ul style="list-style-type: none"> <li>尻腐れ症が発生。教員がカルシウム入りの肥料を与える。</li> </ul>
7月上旬～	<ul style="list-style-type: none"> <li>収穫が始まる。ガイドブックの裏表紙にある熟度色板（右）をカラーコピーして配布し、未熟果を収穫しないよう指導する。</li> <li>収穫したトマトは随時、洗って冷凍保存する。</li> </ul>
7月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷凍保存しておいたトマトを使って、簡単な調理を作り、全員で味わう。</li> </ul>
夏休み前	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドブックの「夏休み用資料」をコピーして配布し、鉢を各家庭に持ち帰る。</li> </ul>
夏休み中	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の協力を得て、観察と調理を夏休みの宿題とする。</li> </ul>



## ここがポイント！ 取り組みの工夫

### 「凜々子」栽培初体験。 ガイドブックを見ながら栽培 スタート！

今年度2学年の担任に就くにあたり、引継ぎで、養護教諭が「凜々子」の苗を申し込んでくれると聞いた。2組担任の奥は、前任校で「凜々子」を育てた経験があったが6年前のことであり、1組担任の竹村は今年初めて「凜々子」を知ったので、苗と一緒に届いた栽培ガイドブックを見ながら活動を進めていくことにした。

一人1本ずつアサガオの鉢に苗を植え付け、毎朝の水やりを欠かさないよう指導した。毎日世話をすることで、トマトの生長過程やその変化を丁寧にとらえることができるよう促した。苗がゴールデンウィーク前に届いたので、休みの間は担任が学校に来て水やりをした。暑くなってくると、子どもが下校した放課後にも担任が水やりをした。



### 取り組みの裏話・・・

#### 発根のようすを観察しよう！の实践

ガイドブックに、わき芽を水に挿して、発根の様子を観察するという実践が掲載されていたので、取り組んでみた。

ほとんどのわき芽が発根したが、2組では土に植え替えた後、急に日当たりの良いところに置いたからか、水が抜けない容器だったからか、根腐れしてしまい、そこから上手く育たなかった。1組では、植え替えた後、場所をこまめに移動させながら徐々に慣らして行くと、順調に育った。15cm程に育ったところで、希望者に家庭へ持ち帰って育ててもらった。



### ウェブサイトをフル活用！ 写真と動画、ワークシートで栽培 への興味・関心を高める

本校には大型モニターとパソコンが学年に1台ずつ配備されており、インターネット環境が整っている。実際に写真や映像を見たほうが作業しやすいと考え、2クラス合同でウェブサイトを使った授業を行った。



「栽培シュミレーション」で栽培の見通しをたて、着果促進と芽かきの動画を見ながら作業の仕方を確認した。また、実物投影機を使って、実際に育てている苗のどれがわき芽かを示し、HPからダウンロードしたワークシート「芽かきをしよう」も使ってわき芽を確認した。

子どもたちは、ワークシートではどれがわき芽かを理解していたが、実際の鉢を前にすると葉が茂っていてどれがわき芽か分かり難く、摘み取るのを躊躇したため、担任が一人一人の鉢を回り、わき芽の場所を教えながら芽かきを行った。

大型モニターでWEB動画を見たことで、子どもたちの栽培やトマトへの興味が高まった。

### 週に一度の追肥で一人20個 収穫！小まめな管理と、きめ細かな 指導が成功の秘訣！

実がつき始めたら追肥が必要とガイドブックに書いてあったので、週に一度、朝の水やりの時に担任が液肥を与えるようにした。ところが、複数の鉢に尻腐れ症が発生したので、インターネットで症状と対処法を調べ、カルシウム入りの肥料を与えた。次第に症状は治まり、7月から収穫できるようになった。

収穫が始まると子どもたちは待ちきれないようすで、未熟なトマトも収穫してしまった。そこで、ガイドブックの裏表紙にある熟度色板をカラーコピーし、ラミネートしたものを児童に持たせて、収穫の目安を確認するようにした。鉢栽培のせいか、標準サイズよりも少し小さめではあったが、1人20個くらいは収穫できた。

収穫したトマトは洗って冷凍保存し、調理に備えた。



## 子どもたちの気付き、実践の成果

### 毎日の世話と「かんさつ名人になろう」の学習で、苗の変化をとらえる力を養う

毎日の水やりを通して、子どもたちは苗の生長の変化によく気付くことができました。「凜々子」という名前も気に入ったようで、愛情を持って接していた。



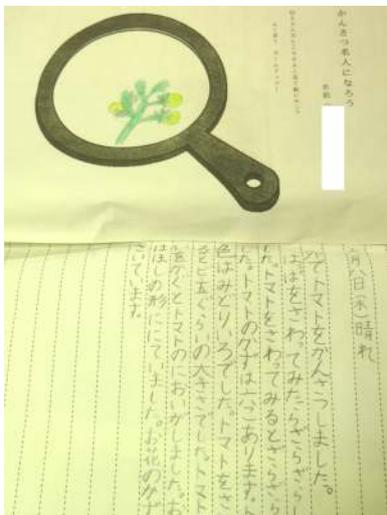
観察は、生活科の時間を使って、定植時、開花時、着果時、赤くなった時の計4回実施した。子どもたちは、触ったり、においをかいだりしながら、気付いたことを記録していった。



6月には国語科の「かんさつ名人になろう」の授業で、絵と文章を使って、相手によすがが分かるよう工夫して書くことを学習した。色、手触り、匂い、実の数等の観察の視点を与えることで、

みな詳しく書くことができた。

また、これを校内に掲示したことで、他の学年にも「凜々子」のようすを知ってもらうことができた。この学習以降、生活科の観察記録も詳しく書けるようになった。



### 調理して食べることで、口に入るまでの時間や手間を実感する

冷凍保存しておいたトマトを使って、7月のお楽しみ会で調理を行った。ガイドブックを参考に、チーズをのせて焼くトマトソテーとシャーベットを作った。トマトソテーは酸味が強く、トマトが苦手な子どもは食べ難いようだった



が、冷たいシャーベットは、暑い時期にピッタリで、みんな大喜びだった。これまでの栽培をふり振り返りながら、みんなで収穫の喜びを味わった。

夏休み前に、保護者の協力を得て鉢を家庭に持ち帰り、観察と収穫したトマトで調理することを夏休みの宿題とした。料理レポートを3枚も提出した児童もいて、夏休みに親子で楽しく調理に取り組んだようすが伺えた。

### 先生から一言！ 実践を通して

2年生の生活科では例年、ミニトマトを育てており、過去にはナスやピーマンなども育てたことがあります。それらに比べて「凜々子」はよく育ち、実もたくさん採れたので、みんなで調理して食べることができたのは良かったです。また、収穫したトマトを冷凍しておけるので、収穫したトマトを保存できるのも便利でした。加工用のトマトなので、夏休みに家で保護者と一緒にいろいろな料理に挑戦した児童もいて、親子のコミュニケーションにも役立ちました。

ガイドブックやウェブサイトにて育て方や対処法が詳しく載っていたので、順調に育てることができました。他校の実践例が載っていたのも参考になりました。

### 受賞理由



「凜々子」を栽培している小学校の約7割で、2年生が「凜々子」を育てています。この田辺東小学校の実践は、2年生の学習計画に無理なく「凜々子」を取り入れていて、「凜々子」栽培初体験の先生方には、ぜひ参考にさせていただきたい取り組みでした！！このように、インターネットと栽培ガイドブックを上手に利用しながら、気負わず、楽しく、スムーズに、より多くの学校で「凜々子」を活用してもらえると嬉しいなあと思います。手間を惜しまず、きめ細やかに対応される先生方の姿勢には敬服しました！